

東京「佃島」界隈を歩く

もんじゃ焼きで有名な月島の近くに「佃島」と呼ばれる地区がある。「佃島」は隅田川河口にできた自然の寄洲であり、古くは徳川家康が摂津国佃村、現在の大阪市西淀川区佃から漁師を呼び寄せたことに始まる。

現在は超高層マンションが林立する「大川端リバーシティ

21」と隣り合わせだが、なかなか風情がある地区だ。佃大橋が完成した1964年までは、石碑のように佃



の渡しが活躍していた。前に渡しの風景をアーカイブスで見たことがある。佃島の鎮守の住吉神社、そして「天安」など名物の佃煮屋などが、遠い昔をしのばせる。

住吉神社は大阪の住吉大社の分社である。3年に一度の大祭は、佃島一体が祭り一色になるという。住吉神社の「一乃鳥居」が隅田川に接するように立っている。坂崎重盛『TOKYO 老舗・古町・お忍び散歩』によれば、かつては



隅田川の波がこの鳥居のすぐ下を洗っていたのではないだろうかと述べている。

この鳥居の右を行くと、住吉小橋から佃公園に出る。佃公園から隅田川をぼんやり眺めていると、佃の渡しなどの様子が目に浮かんでくるようだ。『お忍び散歩』を参考に、また佃界隈を散策したいものだ。

(2008年3月10日 記)